

4段階評定 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

項目	評価指標及び具体的目標	自己評価	自己評価結果の考察・分析及び改善策等	関係者評価	学校関係者評価委員の意見
I 町民総ぐるみによる教育の推進	1 学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ・地域の物的、人的教育資源の有効活用(各学年:年5回以上) ・家読(うちどく)の奨励 ・保護者との協働による生活リズムの推進	3	○ 参観日の出席率(4月:90%、7月78%、9月86%、11月99%、12月75%、1月78%) ● 7月の参観日の出席率が低かった。大雨の影響かもしれない。 ○ 学校支援地域本部事業を充実させるため、町教育委員会・学校支援コーディネーターとの連携を図っている。 ○ 子ども見守り隊連絡会を毎月第一火曜日に実施、応援隊ボランティア募集及び川南小人材活用年間指導計画を作成中。 ○ 家庭読書充実の働きかけ(教職員による評価:肯定的回答86%→91%) ○ 保健室発行の「すこやかだより」やPTA新聞で「早寝早起き朝ごはん」に関する資料を提示することで、啓発を図っている。 ○ 2か月に1回の割合で健康生活週間を設定し、生活リズムを意識するように指導している。また、その結果を給食時間の放送で報告することにより、児童への意識付けと励みになっている。	3.5	□ 参観日の出席率が昨年度よりアップしている。このことは、子どもへの関心が高まってきている結果だと思われる。 □ 子ども見守り隊の結成は、大変素晴らしい取組となっている。 □ 健康生活週間は、親や家族の生活リズムも変わるきっかけとなりよい取組である。
	2 家庭や地域の教育力の向上に努める。 ・学級懇談会等の充実(年6回) ・家庭・地域との連携による登校指導(PTA登校指導:年3回) ・家庭教育学級の活性化		○ 学級懇談会の出席率(4月:65%、9月61%、12月42%) ○ 保護者の要望等を考慮し、学級懇談会の実施回数を6回から4回に変更した。そして、7月参観日には、地区懇談会とPTA心肺蘇生法講習会を実施した。地区懇談会では、「児童の自転車乗車時のヘルメット義務化」について話し合い、PTA全体で義務化を推進していくことで子どもの安全を確保していくことを確認することができた。1月の参観日には、PTA教育講演会として、「スマホ・ケータイ安全教室」を実施し、情報モラル教育を保護者と連携して考える機会を設けることができた。 ○ PTAによる登校指導を6月、9月、1月に実施した。11月のふれあい参観日には、親子登下校を実施した。 ○ 家庭教育学級は計画的に実施。		□ 学級懇談の出席率が低いので、学級懇談の実施回数を減らし、その分、保護者や時代のニーズ等に応じた会(地区懇談会、心肺蘇生法講習会、教育講演会)を実施している点は、改善策を練っていてよい。
	3 開かれた学校づくりを推進する。 ・組織としての学校運営の活性化(各部実効策の活用と評価結果を年2回の学校関係者評価委員会に反映する) ・学校評価を生かした教育課程の改善(児童・保護者アンケートの実施と結果を年2回の学校関係者評価委員会に反映する) ・積極的な情報発信(学校だより、ホームページ、安心メール等による保護者への発信) ・オープンスクールの実施		○ 組織的な分掌・学年運営(教職員による評価:肯定的回答96%→100%) ○ 教職員による評価を基に、校務部会で各部の実効策について課題と改善策を確認し、教育課程実施の改善に努めている。 ○ 教職員による評価・児童及び保護者アンケートを7月、12月に実施した。 ○ 学校だよりを月1回発行、ホームページは1学期中に5回記事掲載、安心メールは、台風接近時等臨時に発信してきた。また、児童作品を新聞社へ積極的に投稿し、1月15日現在、30作品掲載されている。 ● ホームページの記事掲載は、現在のシステムでは掲載作業に手間がかかるため、掲載頻度が低い。28年度は、掲載作業に手間のかからないシステムに変更してより多くの記事を掲載していけるようにしていく。 ○ オープンスクールは、11月15日(日)のふれあい参観日に実施し、地域人材を活用した授業を展開したり、PTAが調理した川小鍋を親子で食べたりと、充実した参観日となった。 ○ 新入学児保護者、幼保職員への授業参観の案内。 ○ 幼保職員へのフリー参観を実施。 ○ 保小連携研修会(8月)を実施。		□ オープンスクールでの地域人材を活用した授業には感動するところがあった。 □ 幼保職員との連携を充分にとり、新入学時のスムーズな対応ができていないかと思う。
II 生きる基盤を育む教育の推進	1 確かな学力を育む教育を推進する。 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。 ・「がってんタイム」の計画的な運用と評価 ・家庭と連携した学習指導の充実(家庭学習の手引きの活用) ・単元テスト80%以上の定着とCRT調査の全国平均達成 望ましい学習習慣を身に付けさせる。【小中連携項目】 ・予鈴着席、チャイム黙想の徹底 ・話を聞く態度の育成(立腰指導の重視) 読書指導を充実する。(読書への関心を高める工夫) ・おすすめの本の紹介 ・朝の読書や読み聞かせ ・ファミリー読書 ・多読賞 ・読書習慣の定着(朝の読書、地域や児童相互の読み聞かせ等) ・ファミリー読書の推進(ファミリー読書カードの活用、町立図書館との連携等)	3	○ 学年主任会を定期的に開催し、各学年での課題等を出し合い、学校全体として、基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための取組を検討することができた。 ○ 朝の「がってんタイム」は、10分間の短い学習時間ではあるが、学年で実施内容を具体的に検討し、共通のプリント等を実施するなどして計画的な運用がなされた。 ○ 秋田県の小学校の学校経営を参考に、本校でこれから取り組むことを検討・協議し、具体的に「何を」「どのように」指導していくか話し合い、実践につなげることができた。 ○ 9月に実施された「みやざき小中学校学習状況調査:5年生」では、4教科全てで県平均を上回った。また、単元テストの平均が各学級とも80%を上回っており、学力向上に向けた取組の成果が出てきている。 ○ 基本的な学習習慣を身に付けさせるために、1学期は「聞くこと」に絞って指導を徹底してきた。その具体的な取組の一つとして行った読書アニメーションでは、児童が真剣に聞く姿勢が見られた。2学期「話すこと」、3学期「書くこと」については、それぞれの指導のポイントを示した掲示物を作成・活用し、各学級で指導した。 ● 児童の立腰の必要性を高めるために、「腰骨を立てる」(詩)を声に出して読ませる場を設けることで、必要性を理解させている。 ● 予鈴の有効的な活用を全校的に取組む必要がある。 ○ ファミリー読書に合わせて、学級単位でのリレー家読を実施した。保護者から「普段手にしない本を読むことができた。」という声が多く聞かれた。また、児童に読んでほしいジャンルをビンゴ形式にして、楽しみながら読書に親しむ工夫により、読書への興味関心を高めることができた。 ○ 地域の読み聞かせボランティア(あけぼの会)の協力による読み聞かせや高学年の児童による読み聞かせ、教師による読み聞かせなど、さまざまな読み聞かせの工夫	4	□ 「がってんタイム」や先生方の取組が結実し、「みやざき小中学校学習状況調査:5年生」での結果が県平均を上回ったり、「CRT学力検査」で全国平均を多くの学年で上回ったりするなどの結果は、高く評価できる。 □ 学習の基本である聞く・話す・書くの3原則を学期ごとに取り入れて習得している点が評価できる。 □ 秋田県の先進校のよい点を取り入れ検討・実践につなげている点もよい。 □ 「読書指導を充実する」という目標を掲げ、学校・家庭での読書への関心が高まってきていることは、子どもの成長に大いに寄与している。学級単位でのリレー家読など工夫された指導は素晴らしい。
	2 豊かな心を育む教育を推進する。 生徒指導の三機能(自己存在感、共感的な人間関係、自己決定の場)を生かした教育活動を推進する。【小中連携項目】 ・教育相談アンケート(毎月)によるいじめ等の早期発見 ・えがお推進委員会(毎月)による児童の共通理解 教児同行「共汗・協働」を推進する。 ・ボランティア活動、あいさつ運動の推進 ・縦割り清掃、無言清掃の徹底 人権に配慮した教育を推進する。 ・道徳の授業の充実と地域への授業の公開(12月) ・人権教育研修の充実(年3回)		○ 学校に行くのが楽しいと感じている児童(児童の自己評価:肯定的回答94%→93%、保護者による評価:肯定的回答93%→91%)生徒指導の三機能を意識した指導が実践されているからだと考える。 ○ 教育相談の充実(教師による評価:肯定的回答100%→100%) ○ いじめ・不登校アンケートを毎月実施した後、教育相談の時間を設定し、その都度、問題を解決している。 ○ 毎週火曜日を「あいさつ運動の日」として取り組んでおり、元気なあいさつを意識する児童が増えてきている。 ○ 清掃時には、清掃場所まで速やかに移動してのチャイム黙想や無言清掃の意識が定着している。 ○ 12月の参観日の参観授業は、全学年・全学級で道徳または人権教育にかかわる授業を公開した。 ○ 人権教育研修会を年3回実施し、教師の人権感覚を高めている。		3.5

	3	<p>健やかな体を育む教育を推進する。  <b>体育科授業の充実を図る。【小中連携項目】</b>          ・体力向上プランに基づく個や集団に応じた体力づくり          ・体力向上週間の計画的実施(持久走や縄跳び運動)          食に関する指導を推進する。          ・「早寝、早起き、朝ご飯」の実践と生活習慣の確立          ・「すくすくみやざき食育推進事業」の充実          保健・安全教育を推進する。          ・性に関する教育(年3回)          ・健康生活週間の計画的な実施          ・薬物乱用防止教室の実施(年1回)          ・う歯の治療率向上(目標60%)          ・避難訓練の実施(年5回:学校行事3回)          ・全学年での交通安全指導の実施(1学期)          ・安全点検の実施(毎月)</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科体育指導の充実(教職員による評価:肯定的回答100%→100%)</li> <li>○ 体育実技研修会を8月・9月に計3回実施。</li> <li>○ 本年度の体力テストの結果は、男女とも目標値を上回るよい結果となった。          A・B判定の目標値35%以上 D・E判定の目標値30%以下          男子 A・B判定 26年度56名(29%)から27年度82名(35%)へ上昇          D・E判定 26年度84名(42%)から27年度69名(29%)へ減少          女子 A・B判定 26年度55名(22%)から27年度89名(38%)へ上昇          D・E判定 26年度102名(40%)から27年度67名(28%)へ減少</li> <li>○ 学級活動での指導や、5・6年の家庭科・調理実習で栄養教諭とのTT授業を行うなど、食に関する指導の充実を図っている。</li> <li>○ 栄養教諭を中心として、「すくすくみやざき食育推進事業」の充実を図っている。</li> <li>○ 隔月で健康生活週間を設定し、「早寝、早起き、朝ご飯」を推進した。</li> <li>○ 保健室の資料を用いて、性教育の指導の充実を図っている。</li> <li>● う歯保有者は、全児童の約30%であり、その保有者のう歯治療率は、1月15日現在55%である。今後も継続して治療勧告を行っていく。</li> <li>○ 避難訓練として避難経路確認(5月)、風水害(6月)、不審者対策(10月)、火災(11月)を実施した。地震・津波想定訓練を2月に実施予定</li> <li>○ 外部講師を招聘し、交通安全指導を実施した。</li> <li>○ 定期的な安全点検を計画通り実施した</li> </ul>	<p>3.5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 児童期の体力向上は将来の基礎を作るもので、男女とも目標値を超えたことは学校での取組が充実している証である。</li> <li>□ 食に関する指導の充実が、健やかな体を育むことに効果をあげている。</li> <li>□ う歯治療は将来的に大切なことである。治療率が昨年度と同率であるので、保護者への更なる情報提供と勧告の必要がある。</li> </ul>
	4	<p>特別支援教育の充実を図る。          ・通常学級との交流や特別支援学校との居住地校交流の推進          ・特別支援教育研修の充実(年3回)          ・ことばの教室の充実(川南町地区・都農町地区)</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通常学級との交流については、年度当初に交流担当者会を行ったり、日々の連絡調整を行ったりすることで、意図的・計画的に交流学習を進めることができた。</li> <li>○ 居住地校交流を、2学期より実施している。</li> <li>○ 昨年度の6年担任を講師役として、研修を実施した。内容としては、特別な配慮を必要とする児童が多い学年を受けもった際に、どのような指導方針の下、より具体的な手立てをどう行ったを振り返りながら有効な手立てを検証した。</li> <li>○ 夏季休業中に幼稚園・保育園を訪問し、年長児の観察を行うと共に、研修会を通して密な連携を図った。また、町ネットワーク会議で情報交換を行った。1月19、20日に次年度入学予定児童を招待し、1年生とのふれあい交流会を実施した。</li> </ul>	<p>3.5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 他校と比べ特別支援児童数が多い中で、教育に対する施策を模索され多くの行事を実施され成果をあげられている。</li> <li>□ 個性の特性(個性)を考え、伸ばす教育の推進が大切で、先生方が頑張っている。</li> </ul>
III 進業自立を した社会 育の、推 進	1	<p>ふるさと川南に学び、誇りや愛着を生む教育を推進する。          ・ふるさと学習の実施(秋季大運動会での川小音頭)          ・町歌斉唱(儀式的行事等)</p>	<p>3.5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 川南湿原(6年)や遊学の森(3年)を実際に見学したり、外部講師による川南町(東 児湯)にまつわる神話や伝承の話を聞いたりすることにより、川南町に対する理解を深め郷土を愛する心が育つよう取り組んでいる。</li> <li>○ キャリア教育年間指導計画に沿った授業等の実施した。          ※ 次年度、川小ハローワーク週間を設け、各学年で外部講師を招いた講話を聞く時間を実施していく。</li> </ul>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 川南の財産である「川南湿原」・「川南町歌」等を大切にしていけることが、心豊かな社会人をつくることにつながるので継続してもらいたい。</li> <li>□ 学校環境緑化優秀賞受賞大変素晴らしいことである。教職員、児童、PTA、地域の皆様方の努力の賜物である。</li> </ul>
	2	<p>キャリア教育の推進を図る。          ・キャリア教育に係る諸活動の実践と年間指導計画の見直し(全学年での体験学習の実施)</p>		
IV 実 魅力 ある環 境教 育の 支 え 充 ち	1	<p>教職員の資質向上に努める。          ・授業研究を核とした校内外の研修、OJTの推進          ・学年部での授業の構築(1人1授業、相互参観授業の実施)          ・服務規律の徹底(年3回以上のコンプライアンス研修)</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道徳の指導について校内研修を行っており、6月・11月に3つの学年部に分かれて授業研究会を実施した。2月にも授業研究会を実施予定。</li> <li>○ 校内研修に指導主事を招聘し、研究が充実した。</li> <li>○ 特に優れた学級経営及び授業実践を行っている教諭を教師役として研修を実施した。(OJTの推進)</li> <li>○ 1人1研究授業の実施は、2学期より全ての教師が実施し、お互いに授業を見合うことで、指導方法や指導技術など「指導力」が高まるよう研鑽に努めている。</li> <li>○ コンプライアンス研修を学期1回実施し、服務規律遵守の意識を更に高めている。</li> <li>○ 年度当初に危機管理マニュアルを見直した。</li> <li>○ 危機管理研修会として、消防署員を講師としての心肺蘇生法の実技研修を実施した。</li> </ul>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学校運営について、校長のリーダーシップや心配りが職員のやる気を引き出している。</li> <li>□ 授業中、児童が集中して先生の話に耳を傾ける姿が印象に残った。先生方の努力がうかがえた。</li> <li>□ 1人研究授業の実践は、教員の資質向上に大いに繋がっている。</li> <li>□ 先生方の指導力も大切だが、児童が先生を人として好きになり、授業に前向きになり学力がつくこともあるので、教職員の人間性も併せて高めてもらいたい。</li> </ul>
	2	<p>安全教育の徹底に努める。          ・危機管理マニュアルの見直しと職員研修の充実          ・校内外の安全点検と防災教育の充実</p>		